

経営比較分析表（令和元年度決算）

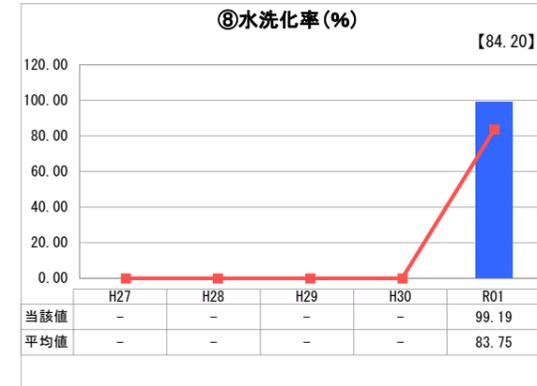
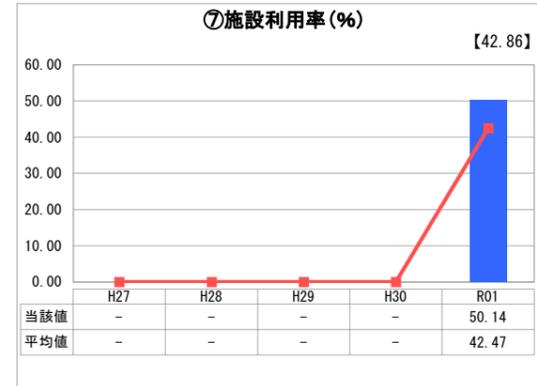
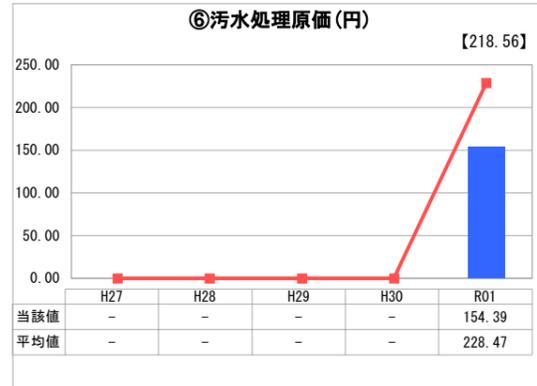
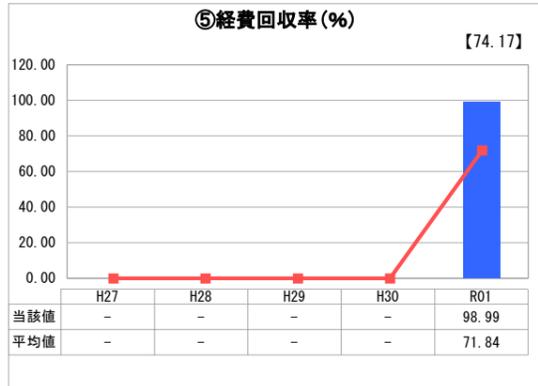
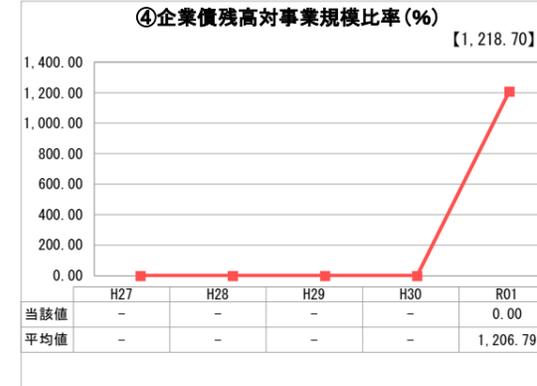
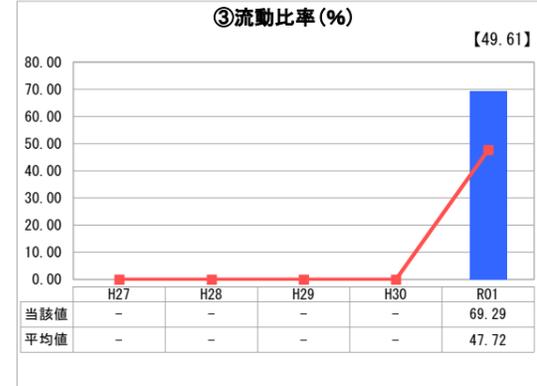
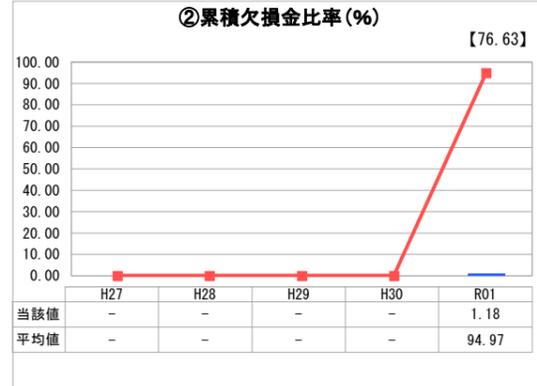
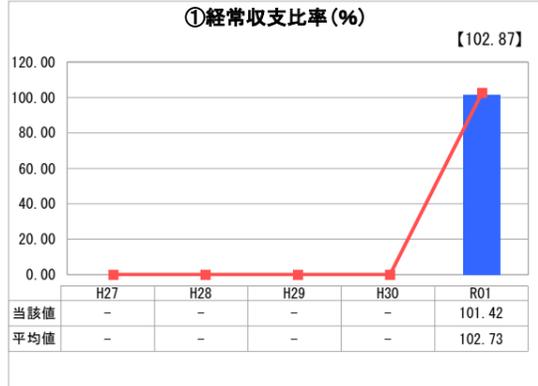
長野県 豊丘村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	72.63	51.77	100.00	3,620

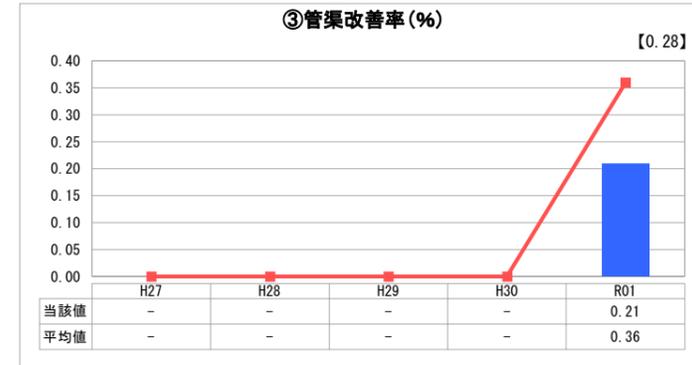
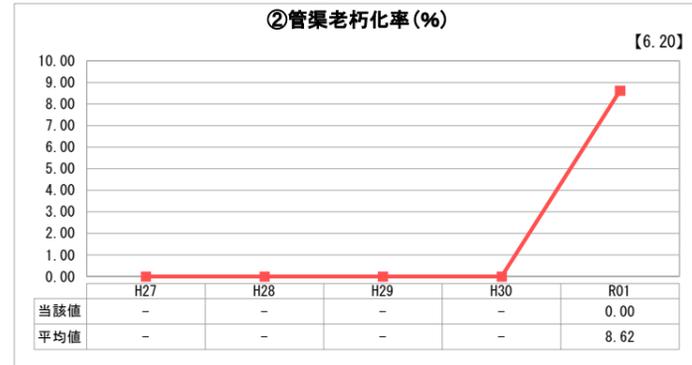
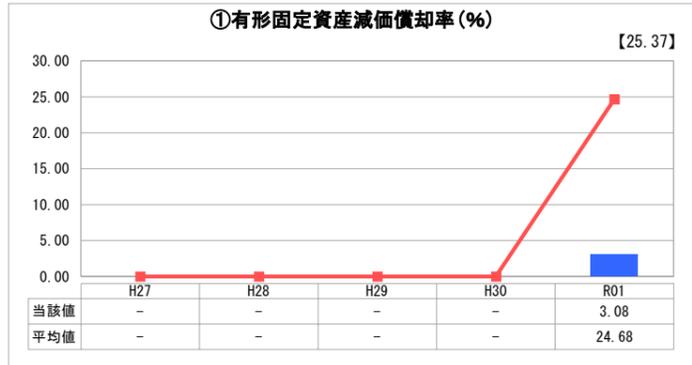
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
6,707	76.79	87.34
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
3,478	1.73	2,010.40

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経費回収率は、平成28年度に使用料改定を実施したことにより改善されているが、収益的収支比率において依然として使用料以外の収入（一般会計からの繰入金）に依存しており、適正な使用料収入の確保をする必要がある。

また、汚水処理原価は、使用料改定によりH28年から改善し、類似団体よりもコストが抑えられているが、処理施設は供用開始24年を経過し、維持管理費が年々増加しているため、運転方法、計画的修繕による費用の平準化等を進め、更なる経営改善を進めていく。

さらに、維持管理に大きなウエイトを占めている施設管理委託を平成30年度から複数年契約にし、更なる費用抑制が図られている。

施設利用率については、水洗化率がほぼ100%と類似団体よりも高く、流入量の大幅な増加は考えにくい。処理能力の60~70%の流入量は、適正処理の可能な範囲となっている。現在の処理状況は安定した状態を維持し、適切な施設規模と考えられる。

2. 老朽化の状況について

H24年度から管渠の調査清掃を行っているが、現在のところ大きな修繕、更新が必要な箇所はない。今後も、計画的に管渠の調査清掃を行い、その結果を基に、計画的な修繕、更新を実施して行く。

全体総括

平成31年4月に下水道事業へ移行し、各種財務諸表・指標等が整理され、当村の下水道事業及びその資産の状況が明らかになった。

それに伴い老朽化・維持管理費等を中心とした現状把握ができた。

現在、経営戦略を策定中で下水道施設更新計画の策定・適正な下水道使用料水準の把握等を行い更なる経営改善等への取組により、持続可能な下水道事業の経営を目指す。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。